



広友グループ

広友リース株式会社

3台のWindowsサーバーをIXSでSystem iへ統合

サーバーのリース料金や保守料の減額で、5年間のランニングコストを約26%削減



梅木健行氏
コーポレート本部
情報企画グループ
グループ長

サーバーの一元化により 導入・保守コストの削減を目指す

広友リースは1968年、国内で初めて建設現場事務所向けのレンタル事業を開始して以来、不動産販売センター向け、さらにビジネスイベント向けへと着実にレンタル事業領域を拡大。今では国内の一般企業から外資系企業へ、さらに中国上海へ進出するなど幅広くビジネスでのレンタル活用を推進するほか、全国16店舗を展開するリサイクルショップ事業などにも進出している。またレンタルビジネスを通して地球環境にやさしい独自の3R事業を展開している。

新規事業の柱として成長しているイベント向けレンタル事業では、2002年サッカーワールドカップ全国10会場、総数量2000トンの物品対応や2005年の愛知万博において6856品目、27万点余りの備品をレンタルするなど大型イベントに納入実績

を誇っている。

こうした業務を支援するために長く運用していた

オフコンに代わって、同社は2001年に「iSeries 830」へのリリースを決定。全面的な再構築作業を経て、2003年に新・基幹システム「KiT (Koyu information Technology) システム」の本稼働を開始した。このシステムは、レンタル事業に伴う見積もり処理をはじめ、受注・在庫・売上・請求・売掛管理、さらに備品の仕入・発注・買掛管理、メンテナンス履歴管理、クレーム情報や廃棄処理の管理などをサポートする。構築に際してはパッケージ製品を一切使わず、すべてRPGによる自社開発型で実現した。

さらに2007年2月には、iSeries 830から「System i5 550」への移行を果たしている。今年3月のリースアップに先立って、2006年春頃からサーバー更新の計画を開始した。コーポレート本部情報企画グループの梅木健行グループ長によれば、その狙いは「将来的な拡張と容量の拡大、サーバーの一元化によるコストおよび保守費用の削減、老朽化への対処、そして最新テクノロジーの利用」であるという。

同社は2006年4月に、配送部門が分離独立した広友ロジックス、同年10月には商品のメンテナンスおよびLAN工事部門が分離独立した広友イノテックスが相次いで誕生し、急速な分社化が進展している。現在は広友リースを含めて6社がグループを形成し、今後も分社化を進める計画だ。



西村 武氏
コーポレート本部
情報企画グループ
サブリーダー

point

分社化の進展で将来的な拡張性やデータ量増大に備える

IXSにより3台のWindowsサーバーをSystem iへ統合

HATSの導入で、基幹業務のWeb対応と画像データ利用を計画

新たに設立されたグループ会社に対しては、2007年度から3カ年計画にてSystem i5 550上で新しい売上管理システムと内部統制を支援するシステムを開発する計画であり、同時に連結システムも構築する。急激なデータ量の増大が予想され、拡張性や容量の拡大は必須要件であった。

またサーバーの一元化によりコスト削減を実現するため、社内に50台近くあるPCサーバーの一部を、IXS (統合xSeriesサーバー)により統合することも大きな狙いであった。同社では会計システム、就業管理システムを運用している2台のWindowsサーバーに、もう1台 (現在選定中)を加えて合計3台のPCサーバーを年内中にIXSでSystem iに統合する計画だ。

IXSのCPUボードを購入する場合と比較すると、新規にWindowsサーバーを導入するコストの約2分の1に減額できる。System i5 550により現在の4倍の容量を確保し、5年先を見越した容量設計を前提に、サーバーのリース料金に加え保守料金、バッテリー装置費、電気料金、設置場所の費用まで含めると、5年間合計のランニングコストを約26%削減できる試算となる。

Web環境への移行で 画像データを業務システムで利用

コーポレート本部情報企画グループの西村武氏(サブリーダー)はIXSについて、「当社ではSystem iを定期的にレポートしていますが、その作業の間は

Windowsサーバーも使用できないなど、IXSには当初想定していなかった独特の使い勝手が判明しました。でもバックアップ作業などはSystem i上で一元的に実行できますし、信頼性の高いSystem iの環境でWindowsサーバーを安定的に使用できるメリットは非常に大きいと感じています」と語る。

同社では現在、System iをデータセンターに委託しているが、IXSではCPUボードをSystem iに内蔵させるだけなので、データセンターへの新たな委託費用を発生させることなく、Windowsサーバー群の安全性や災害・妨害対策を実現できることになる。今後は、PCサーバー更新のタイミングと運用業務の特徴を見極めながら、順次IXSによる統合を拡大していく計画だという。

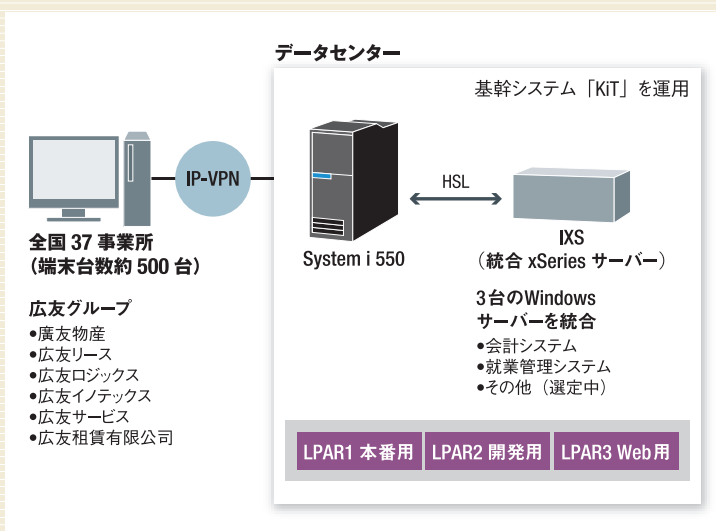
また今年2月に導入されたSystem i5 550では3つのLPAR (論理区画)を設定している。それぞれ本番用、開発用、Web用に利用して、本番環境と開発環境を完全に分離した。

同社では今後、基幹業務システムをWeb環境へ移行することを検討しており、3つめのLPARはそのテスト用である。今後、HATS (WebSphere Host Transformation Services)を導入して、Web化へのテストを開始する計画であるという。

「お客様から破損の連絡やクレームを受けた場合、レンタル商品を画像で確認できると対応が迅速になりますし、受注センターでも画像を参照しながら取りできると、業務効率が高まります。今後はこうした画像処理が不可欠と考えられるので、Web環境への移行を実現していくことになると思います」(梅木氏)

System iへの移行を機に、同社はグループ会社の情報統合や新事業の創造、経営機能の強化など、ITを活かした経営戦略へ新たな目標に向けて確実に動き出しているようだ。

①



図表 システム概要

- 設立: 1970年
- 資本金: 2億2000万円 (グループ合計)
- 売上高: 250億円 (グループ合計)
- 従業員数: 720名 (パート200名含む)
- 事業内容: 総合什器備品レンタル業。建設業界・不動産業界・イベント業界をはじめ、国内外の企業向けに什器備品をレンタル、リサイクルショップ「リスタ」の運営
- <http://www.koyou.co.jp/>

company profile